

立命館大学大学院  
2023年度実施 入学試験  
博士課程前期課程  
**文学研究科**

人文学専攻・日本文学・日本語学専修

入試方式	実施月	コース	専門科目		外国語(英語)	
			ページ	備考	ページ	備考
一般入学試験	9月	研究一貫	P.1~		P.4~	一部窓口公開のみ (WEB非公開)
	2月		P.7~		×	
	9月	高度探究	P.1~		/	
	2月		P.7~			
社会人入学試験	9月	研究一貫	P.1~		/	
	2月		P.7~			
	9月	高度探究	/		/	
	2月					
外国人留学生入学試験 (RJ方式)	9月	研究一貫	P.1~		/	
	2月		P.7~			
	9月	高度探究	P.1~		/	
	2月		P.7~			
学内進学入学試験	9月	研究一貫	/		/	
	2月					
	9月	高度探究	/		/	
	2月					
APU特別受入入学試験	9月	研究一貫	/		/	
	9月	高度探究				

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの  
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

立命館大学大学院  
2023年度実施 入学試験  
博士課程 後期課程

# 文学研究科

人文学専攻・日本文学・日本語学専修

入試方式	実施月	外国語(英語)	
		ページ	備考
一般入学試験	2月	P.9~	
外国人留学生入学試験	9月		
	2月		
学内進学入学試験	2月		

【表紙の見方】

×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの  
斜線・・・学科試験(筆記試験)を実施しないもの

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2024年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年9月9日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本文学・日本語学専修

「専門科目」

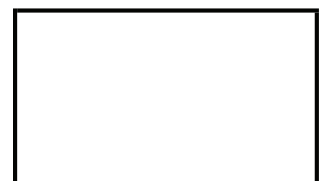
全 6 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本文学・日本語学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

**【日本文学を主たる研究対象とする学定の者】**

以下の問題について、全て答えなさい。解答の際には、**問題番号を明記し、縦書き**で書きなさい。

- I あなたの研究における問題意識と研究方法について、具体的に述べなさい。
- II 一九八〇年代の文学状況について、具体例を挙げながら説明しなさい。
- III 次の①から④までのすべての問題について、論述しなさい。それぞれ、解管用紙に数行程度で記すこと。
- ① 『伊勢物語』について、知るところを述べなさい。
- ② 古典和歌と近代短歌の違いについて、知るところを述べなさい。
- ③ 武者小路実篤の文学について、知るところを述べなさい。
- ④ 昭和二〇年代の女性文学について、知るところを述べなさい。

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本文学・日本語学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

**【日本語学を主たる研究対象とする予定の者】**

以下の問題について、全て答えなさい。解答の際には、**問題番号を明記し、横書き**で書きなさい。

問1 あなたがこれからやろうとする研究が、日本語研究においてどのように位置付けられるか。さらに今後どのように発展するか。具体的に述べなさい。

問2 日本語研究でコーパスを利用する利点として、どのようなことが挙げられるか。また、コーパスを利用する際にどのような点に注意する必要があるか。具体的に述べなさい。

問3 次の①から③について、それぞれ知るところを述べなさい。

- ① 動詞活用の歴史的変遷
- ② 中世口語資料
- ③ ハ行転呼音

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2024年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2023年9月9日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本文学・日本語学専修

「外国語」(英語)

全 4 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



2024 年度入学試験（2023 年 9 月実施）

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本文学・日本語学専修)	前期課程	外国語 (英語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

下記の文章を全て、現代日本語へ翻訳しなさい。

この問題は、公開していません。

## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学専攻 (日本文学・日本語学専修)	前期課程	外国語 (英語)	<input type="checkbox"/> 研究一貫		

この問題は、公開していません。

【出典】Murakami Haruki “Introduction: Akutagawa Ryūnosuke: Downfall of the Chosen.” *Rashōmon and Seventeen Other Stories*, PENGUIN BOOKS, 2006, pp.xix-xxi



※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2024年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2024年2月11日

博士課程前期課程 人文学専攻  
日本文学・日本語学専修

「専門科目」

全 5 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	コース	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本文学・日本語学専修)	前期課程	専門科目	<input type="checkbox"/> 研究一貫 <input type="checkbox"/> 高度探究		

問題一から問題三までのすべてに答えなさい。解答の際には、問題番号を記入しなさい。

問題一 あなたの研究が、文学研究史の上でどのような意味を持つのか、考えるところを述べなさい。

問題二 古典文学を専攻する者は①を、近現代文学を専攻する者は②を選択して説明しなさい。

- ① 菅原道真がその後の日本文学に与えた影響について具体例を挙げながら説明しなさい。
- ② 私小説について、具体例を挙げながら説明しなさい。

問題三 次の①から④までのすべての問題について、それぞれ解管用紙に数行程度で論述しなさい。

- ① 『日本書紀』について、知るところを述べなさい。
- ② 談林俳諧について、知るところを述べなさい。
- ③ 耽美派の文学について、知るところを述べなさい。
- ④ 一九三三年に創刊された『文学界』について、知るところを述べなさい。

※試験終了後、ホッチキスで綴じること(太線の4箇所)

2024年度 立命館大学大学院文学研究科入学試験問題

2024年2月11日

博士課程後期課程 人文学専攻  
日本文学・日本語学専修

「外国語」(英語)

全 3 ページ

●受験上の注意

- ① 試験中、冊子をばらしても構わないが、終了後再び綴じて提出すること  
(ホッチキスを貸与します)
- ② 全ての用紙に受験番号、氏名等を記入し、提出すること

●試験中の持込許可物件について

- ① 筆記用具、受験票、時計以外の持込は認めない



## 文学研究科入学試験答案用紙

専攻・専修名	課程	科目	受験番号	氏名
人文学 専攻 (日本文学・日本語学専修)	後期課程	外国語 (英語)		

問題 つぎの文章のすべてを、現代日本語に翻訳しなさい。

Along with the possibility of the extinction of mankind by nuclear war, a central problem of our age is the contamination of man's total environment with substances of incredible potential for harm — substances that accumulate in the tissues of plants and animals, and even penetrate the germ cells, to shatter or alter the very material of heredity, upon which the shape of the future depends. Some would-be architects of our future look toward a time when we will be able to alter the human germ plasm by design. But we may easily be altering it now by inadvertence, for many chemicals, like radiation, bring about gene mutations. It is ironic to think that man may determine his own future by something so seemingly trivial as the choice of his insect spray. The results, of course, will not be apparent for decades or centuries. All this has been risked — for what? Future historians may well be amazed by our distorted sense of proportion. How could intelligent beings seek to control a few unwanted species of weeds and insects by a method that brought the threat of disease and death even to their own kind?

The problem whose attempted solution has touched off such a train of disaster is an accompaniment of our modern way of life. Long before the age of man, insects inhabited the earth — a group of extraordinarily varied and adaptable beings. Since man's advent, a small percentage of the more than half a million species of insects have come into conflict with human welfare, principally in two ways — as competitors for the food supply and as carriers of human disease. Disease-carrying insects become important where human beings are crowded together, especially when sanitation is poor, as in times of natural disaster or war, or in situations of extreme poverty and deprivation. As for insects that compete with man for food, they become important with the intensification of agriculture — the devotion of immense acreages to the production of a single crop. Such a system sets the stage for explosive increases in specific insect populations. Single-crop farming does not take advantage of the principles by which nature works; it is agriculture as an engineer might conceive it to be. Nature has introduced great variety into the landscape, but man has displayed a passion for simplifying it. Thus he undoes the built-in checks and balances by which nature holds the various species within bounds. One important natural check is a limit on the amount of suitable habitat for each species. Obviously, an insect that lives on wheat can build up its population to much higher levels on a farm devoted solely to wheat than on a farm where wheat is intermingled with crops to which the insect is not adapted. In all such circumstances, insect control of some sort is necessary and proper. But in the case of both types of insect — the disease-carrying and the crop-consuming — it is a sobering fact that massive chemical control has had only limited success, and even threatens to worsen the very conditions it is intended to curb.

(出典 Rachel Carson. *Man's War Against Nature*. Penguin Books, 2021, pp.9-11.)